洋上アルプス No.232

平成 26 年７月７日
林野庁屋久島森林生態系保全センター発行
鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦 1577-1
TEL0997-42-0331　FAX0997-42-0333
http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/

第２回国際照葉樹林サミットｉｎ屋久島

「第２回国際照葉樹林サミットｉｎ屋久島」が平成26年６月７日に屋久島町宮之浦の離島開発総合センターで開かれました。

当サミットは、照葉樹林への理解を深め、その保護と利用に関する情報交換や交流を通じて持続可能な自然と人と文化の未来を展望し、地域づくりにつなげることを目的に行われたものです。当サミットでは、屋久島・口之永良部島のユネスコエコパーク再登録を目指した取り組みも併せて行われました。

当日は荒木耕治屋久島町長の開会あいさつで始まり、来賓の川端省三九州森林管理局長からは「照葉樹林の素晴らしさに理解を深め、次世代に引き継ぐ重要性を共有するとともに、照葉樹林や生物多様性の保全、森林を活かした地域づくりについて地域の皆さまと連携した取り組みを進めたい」とあいさつ。

サミットは、京都大学霊長類研究所の湯本孝和教授とブータン農業省再生可能資源リサーチセンターのペマ・ワンダ所長が基調講演。また、「照葉樹林とユネスコエコパーク」、「共生と多様性の森」をテーマに発表が行われ、全体討議が行われました。

第１回開催地の宮崎県綾町からは、照葉樹林の保全や有機農業の取り組みが紹介されるなど、森の恵みが支える地域の豊かな発展や照葉樹林の不思議をテーマに多くの方々が発表、討議を行ない、第２回国際照葉樹林サミット宣言を採択し終了しました。

当センターでは国有林の保護林制度が来年１００周年を迎えることもあり、サミット会場に照葉樹林を中心とした保護林の写真パネルを展示し、国有林の取り組みを多くの参加者に紹介しました。

保護林のパネル展示

屋久島生態系モニタリング

屋久島北部の植生垂直分布調査(平成 22 年度)

●標高 1350 ﾒｰﾄﾙプロット

187 年生の天然林。中心部には樹高 17.1 ﾒｰﾄﾙ、胸高直径 209.5 ｾﾝﾁのヒノキの大径木が存在。局所地形は平衡斜面、平均斜面方位は南南西、標高 1355 ～ 1365 ﾒｰﾄﾙ範囲。

[高木層]ヒノキにツガ・モミ・ヒメシャラ・着生ヤマグルマが混生し、植被率が高い。ヒノキ(胸高直径 209.5 ｾﾝﾁ、樹高 17.1 ﾒｰﾄﾙ)にはヤマグルマが高さ２ﾒｰﾄﾙ・３ﾒｰﾄﾙ・3.6 ﾒｰﾄﾙの位置にそれぞれ着生。胸高直径 154 ｾﾝﾁ・樹高 18.6 ﾒｰﾄﾙのヒノキにも地上 3.5 ﾒｰﾄﾙの位置にヤマグルマ２本とソヨゴ１本が着生。**[亜高木層]**ハイノキ・ユズリハ・シキミ・ヤマグルマ・ソヨゴが生育するが個体数は少なく植被率も低い(20%程度)。ただし平成 17 年度時点と比較すると、ハイノキの旺盛な生育が目立つ。**[低木層]**ハイノキ・サクラツツジが多く、斜面に沿って斜上している。ヒメヒサカキも比較的多い。他にユズリハ・シキミ・ソヨゴ・ヒメシャラ・アセビ・イヌツゲも生育して植被率が高い(90%程度)。**[草本層]**ハイノキが多い。他には低木層と同じくサクラツツジ・ユズリハ・シキミ・ヒメヒサカキ・ヒメシャラ・アセビ・タンナサワフタギ・ヒノキ・スギなどが生育。**[特徴]**ヒノキ－ハイノキ群集。高木層には樹冠のよく発達したヒノキ・モミ・ツガ・ヒメシャラが生育。当箇所は高塚山の北東側に隠れた風当たりの弱い場所なので、樹冠部の風衝被害は見られない。亜高木層にはヤマグルマ・ユズリハ・ハイノキ・タンナサワフタギ等が出現し、低木・草本層にはヒメヒサカキやイヌツゲが見られる。**[5年前との比較]**高木層はほとんど変化は見られないが、低木層のハイノキの一部が亜高木層へと生長し優占。ヤクシカの食害が若干増えてきた。

「モーターカーによる救助活動」農林水産大臣賞を受賞

屋久島森林管理署は、「モーターカーによる救助活動」が優良職員等表彰として農林水産大臣賞を受賞、６月24日九州森林管理局において川端省三局長から伝達が行われ表彰状と楯が授与されました。

当モーターカーは小杉谷事業所開設と同時に大正12年に安房・小杉谷間16ｷﾛの森林軌道が完成し、昭和45年事業所閉鎖になるまで木材の搬出をはじめ生活する方々の足として利用されてきました。

平成５年屋久島が世界自然遺産に登録され、屋久島を訪れる登山者が増加。このため登山者が負傷した場合など、消防署からの依頼を受けて、登山者の救護活動に永年に亘り貢献してきたことが高く評価され、今回の受賞となったものです。

今後も救助活動に貢献していくこととしています。

川端局長から表彰状の伝達を受ける

救護活動に活躍したモーターカー

屋久島の植物

ヤクシマカラスザンショウ
（ミカン科）

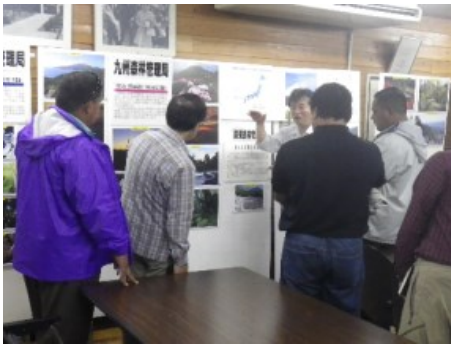
屋久島に固有の落葉高木。葉は奇数羽状複葉で、小葉は卵形、葉軸は赤みを帯びる。標高４００ﾒｰﾄﾙ以上の山地で見られる。低地に多く見られるカラスザンショウは、小葉は細長く葉軸はほぼ緑色で、葉・花付き・樹形が全体的に大柄。花期７～８月。

サモアの研修生が保全センターを来訪

屋久島森林生態系保全センターではサモア独立国の研修生３人の訪問を受け、屋久島における森林の保全活動について当センターの前田三文所長が説明を行いました。

サモア独立国はニュージーランドの北２３００キロに位置する南太平洋の島国です。研修生は外務省無償資金協力事業としてアジア航測会社が実施している「森林保全計画」技術支援の研修生でサモア独立国で環境保護や森林計画を担う行政職の方々です。

前田所長は日本の世界自然遺産や屋久島における保全活動についてパネルやプロジェクタで紹介しました。



パネルを用い説明する前田所長

サモア独立国では世界遺遺産登録を目指しており、「世界遺産登録に向けて林野庁でどのような取り組みを行ったのか？・・・」など多くの質問が寄せられました。

研修生の尽力によりサモア独立国での世界遺産登録が実現することが期待されます。

屋久高１年８０人が！「岳詣り」登山へ

～センター職員が事前学習の指導へ～

６月19日、鹿児島県立屋久島高等学校からの依頼を受け当センターの竹部浩一郎専門官が学校登山に伴う事前指導を行いました。

当高校では郷土に伝わる「岳詣り」の風習を体験しながら、郷土の自然環境や自然と人との結びつきを考え環境保護に関する高揚をはかること。また、集団活動を通じて連帯感を養うことを目的とし、例年１年生による「宮之浦岳登山（１９３６メートル）」が行われており、本年は７月11日が計画されています。

今回の事前学習では登山に向け意識を高めるとともに想定される危険や対処法を学ぶことで安全な活動が行えること。また、簡易トイレの利用方法を理解することで環境について考えることを目的に行われたもので、生徒80人に加え教諭ら15人が参加しました。

竹部専門官は、山岳部のトイレ対策の問題点について、屋久島が世界遺産登録されたことにより入山者が増加し、野外での用足しが自然環境へ与える影響やトイレの維持管理費が膨らんでいることなどにふれ、携帯トイレ利用のメリットや使用方法について説明しました。「自然環境のためにも携帯トイレの役割は大きいと思います。携帯トイレを体験してもらいたい」と強調するとともに、登山マナーなどについて説明。生徒らは熱心に耳を傾けていました。

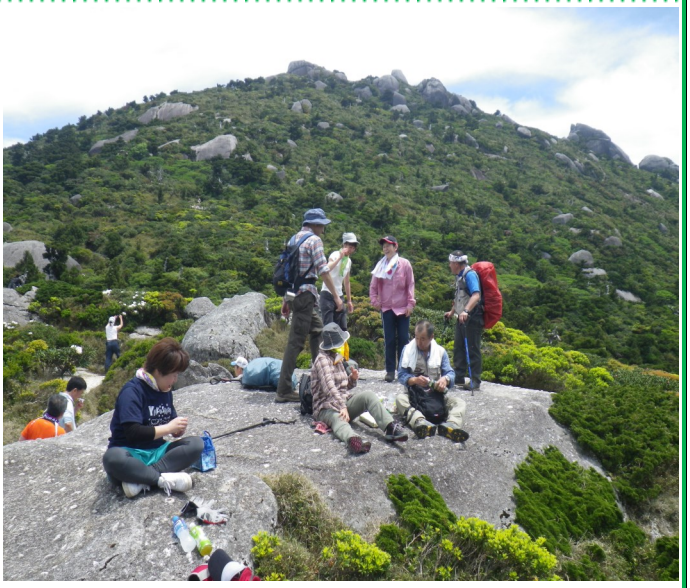
竹部専門官の説明に耳を傾ける生徒ら
（屋久島高校）

国民の祝日として『山の日』が制定

平成 26 年 5 月 23 日の参議院本会議において、平成 28 年から 8 月 11 日を「山の日」として、新たに国民の祝日とする法律が可決、成立しました。

同法は山の日を「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」と定めています。レクリエーションの場をはじめ、国土の保全や水源のかん養、地球温暖化の防止、生物多様性の保全。また、木材の安定供給などなど山や森林の果たしている役割は多様です。

一方、落石や滑落、落雷など山の自然には危険も潜んでいます。安全対策は怠らないよう悠大な山々の恩恵に感謝し、次世代に引き継ぐために何ができるか考える機会となることを願います。



山の自然を満喫する登山者
【投石平と投石岳（1，830ｍ）】